

身近な多文化共生に気づくとき

先日、買い物をしていたときのことです。私の前に外国人のお客さんがレジに並んでいました。店員さんは「レジ袋はどうしますか」と尋ねていましたが、言葉だけでは伝わりにくいと感じたのか、手で袋の大きさを示しながら、ゆっくりとした口調で説明していました。外国人のお客さんも熱心に話を聞き、大きなレジ袋をお願いすると、最後は笑顔で「ありがとう」と言って店を後にしました。ほんの数分のやり取りでしたが、お互いに伝えよう、分かろうとする姿がとても印象に残りました。

私の「言葉は通じるのかな」という心配をよそに、二人は自然にやり取りを続け、買い物を終えていきました。私が「大丈夫かな」と少し身構えて見ていた出来事は、店員さんにとっても外国人のお客さんにとっても、いつもの日常だったのかもしれない。「外国人だから難しいのでは」と考えていたのは、私自身の無意識



の思い込み（アンコンシャスバイアス）であることに気づくきっかけになりました。

私たちは「言葉が通じない」と思うと、不便さや難しさを思い浮かべがちです。しかし、少し話す速さを変えたり、身振りや指さしを加えたりするだけで、気持ちはしっかり伝わります。大切なのは完璧な言葉よりも、お互いに理解しようとする気持ちなのだと感じました。

レジで見かけた何気ないやり取りは、誰もが安心して暮らすためのヒントを教えてくださいました。言葉や習慣が少し違っていても、相手を知ろうとし、伝えようとする気持ちがあれば心は通じ合うものです。

私たち一人一人がお互いを理解し合おうとする気持ちが、多文化共生を進めていく大切な力になるのではないのでしょうか。



出土した古墳時代の竪鋤
(写真提供：兵庫県立考古博物館)



津万地区での竪穴建物跡の調査風景
(写真提供：兵庫県立考古博物館)



弥生時代後期の竪穴建物跡のほか、古墳時代の粘土採掘跡からは竪鋤が出土しています。さらに、奈良・平安時代の硯やベルト飾りなど、役所関連とみられる遺物も確認されました。平安時代半ばから鎌倉時代にかけては、掘立柱建物の屋敷が営まれていたとみられ、墓には中国製の青白磁などが副葬されていたことから、この地域を治めていた有力者の存在がうかがえます。郷土資料館では27日までこれらの調査成果を展示しています。ぜひご覧ください。

▼問合せ 郷土資料館（☎23-5992）

津万遺跡群（寺内・西嶋・嶋・津万）

ふるさとの魅力再発見ーにしわき歴史探訪

84

市長からの手紙

— 西脇を元気に!! —

152



兵庫県からの第1陣として熊本県宇城市の被災地支援に職員2名を派遣

令和8年熊本地震への支援
このたびの「令和8年熊本地震」によりお亡くなりになった方々に、謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
今回の地震は、10年前の大地震から年月がたち、日頃の備えの大切さを改めて考える時期に発生した予期せぬ災害でした。被災地では水道や電気などの生活インフラに大きな被害が生じています。厳しい暑さの中、被災された方々だけでなく、復旧作業に当た



西脇市長 片山象三

る方々の心身への負担は大きく、熱中症をはじめとする健康への影響も懸念されます。本市では、8月2日から西脇病院のDMAT（災害派遣医療チーム）4名を現地に派遣し、支援活動を行いました。また、8月7日からは市職員2名を宇城市に派遣し、被災自治体の業務を支援しています。さらに、義援金箱を設置するとともに、宇城市へのふるさと納税の代理受付を行っています。現地では必要とされる支援は、被害や復旧の状況に応じて変化します。関係機関と連携し、今後必要な支援を届けてまいります。
災害は、いつ、どこで起こるか分かりません。この機会に、非常時の持ち出し品や備蓄品、避難場所、家族との連絡方法などを確認し、できることから備えてください。被災地の一日も早い復旧・復興を心から願うとともに、皆さまの温かいご支援とご協力をお願いいたします。

みんなでまちづくりー市民の皆さんのまちづくり活動ー

へその緒でつながるまちを目指して

～野村地区まちづくり推進協議会のご紹介～

野村地区まちづくり推進協議会では、「へその緒でつながるまち野村」を合言葉に、住民同士のつながりを大切に、互いに支え合える地域づくりを進めています。

野村地区への愛着を育むため、平野口交差点の壁面アート前にあるしばざくら花壇を整備するなど、花を通じて地域の温かみを発信し、「心通じ合う温かい住みよい野村町」を目指して活動しています。

また、これからの野村町をみんなで考えるワークショップをスタートしました。「こんなまちにしたい」という思いをまずは気軽に話しましょう。普段は地域活動にあまり関わる機会がない方も、身近なところから参加できます。



西脇の自然 630

ツユクサ

ツユクサ科

草丈20～50センチほどの一年草で、6～9月ごろに鮮やかな青い花を咲かせます。梅雨の時期に咲き始めるので「ツユクサ」と名付けられたと思われがちですが、漢字では「露草」と書きます。朝に花を咲かせ、昼にはしぼんでしまうはかない姿が朝露のように見えることから名付けられたという説が有力です。

古くから青色の染料として使われており、「露草色」は日本最古の青色染料とも言われ、万葉の時代から親しまれてきた色です。現在でも友禅染の下絵などに用いられています。

万葉集では「月草」として詠まれ、朝に花を開き、昼には静かに花を閉じる姿が、人の心の移ろいと重ねられました。俳句では秋の季語として、季節の移ろいをそっと知らせる植物として親しまれています。

【西脇市動植物生態調査研究グループ】